

企画展入館券が必要です。  
For children and adults, free with museum admission.  
入館料 一般 500円、小・中学生 250円  
Admission: Adults ¥500, Children ¥250  
月曜休館 Closed on Mondays.

## 企画展 Special Exhibition 2-3F

2007年4月28日(土)～9月2日(日)

Saturday, Apr. 28 to Sunday, Sept. 2, 2007

—シルクロードへの誘い— 萩野矢慶記写真展

青い煌き ウズベキスタン

写真と美術工芸品でたどる世界遺産の過去と現在  
“The Blue Splendors of Uzbekistan”

—Journey to the Silk Road Oases  
through Works of Art and Photographs—

入館料 一般 500円、小・中学生 250円

Admission: Adults ¥500, Children ¥250

2008年1月26日(土)～5月18日(日)

Saturday, Jan. 26 to Sunday, May. 18, 2008

解説！ 小さなガラスの円盤

—知られざる中世イスラーム時代の  
エジプト都市空間— (仮称)

Exhibition of glass weights and stamps  
from Islamic Egypt (scheduled).

ガラスで作られた小さな円盤(プーヴィエ・コ  
レクション)を日本で初公開。ミクロな世界  
に記された文字を読み解き、中世イスラーム  
時代のエジプト都市空間で繰り広げられた  
人々の生活を紹介します。

入館料 一般 500円、小・中学生 250円

Admission: Adults ¥500, Children ¥250

「解説！ 小さなガラスの円盤」講演会

2008年4月中旬開催予定

詳細は次号でお知らせします。

## 利用案内 Visitor Information

# 横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12  
12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021  
Tel.045-663-2424 Fax.045-663-2453  
<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

開館時間 9:30 a.m.～5:00 p.m.  
(入館は4:30 p.m.まで)  
休館日 毎週月曜日・年末年始ほか  
入館料 一般200円  
小・中学生100円  
企画展開催時には別料金になることが  
あります。  
毎週土曜日は小・中学生、高校生無料。  
「障害者手帳」・横浜市の「長寿のしおり」  
等をお持ちの方には、入館料の減免制度  
がありますのでお尋ねください。

Hours 9:30 a.m.～5:00 p.m.  
(Admission until 4:30 p.m.)

Closed Mondays and year-end/  
New Year's recess

Admission ¥200 for adults  
¥100 for primary and  
junior high school students



Map in English → Website

交通アクセス  
みなとみらい線日本大通り駅3番出口から徒歩0分  
JR関内駅南口・市営地下鉄関内駅1番出口から徒歩約10分  
Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato Mirai Line.  
10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or Municipal  
Subway.

## 臨時休館のお知らせ

9/4(火)は展示替えのため休館します。  
Closed on Sept. 4(Tues.) for the change of  
exhibition.

News from EurAsia No.8

横浜ユーラシア文化館ニュース第8号

企画・編集・発行 横浜ユーラシア文化館 2007年8月1日

デザイン／(有)オフィスエルク

印刷製本／ツルミ印刷株

禁無断転載

©2007 Yokohama Museum of EurAsian Cultures



# News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

## ■ 目次 Contents

アートウォッチング p.2

Art Watching

グーリ・アミールに見る文字装飾

Gur-i Amir - Calligraphic Inscription

as Architectural Ornament -

文 澤田 結美 Essay by Yumi Sawada

写真 萩野矢慶記 Photographs by Keiki Haginoya

ギャラリートーク p.4

Gallery Talk

楔形文字粘土板文書(2)

Cuneiform-Inscribed Clay Tablets (2)

鶴岡宜規 Yoshinori Tsuruoka

ウズベキスタンと日本 p.6

Uzbekistan and Japan

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

展覧会・イベントのご案内 p.7

Special Exhibitions and Events

利用案内 p.8

Visitor Information

横浜ユーラシア文化館  
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

no. 8





スルス体とクーフィー体で構成される碑文帯  
Inscription frieze with *thuluth* and *Kūfī* scripts.

# Art Watching

アートウォッチング

## ゲーリ・アミールに見る

## 文字装飾 — Gūr-i Amīr — Calligraphic Inscription as Architectural Ornament —

文 澤田 結美 Essay by Yumi Sawada  
写真 萩野矢慶記 Photographs by Keiki Haginoya

ティムールや彼の一族の墓廟として知られるゲーリ・アミールは本来、マドラサ(学校)やハーンカー(イスラーム神秘主義者の修行場)などから成る複合施設でした。墓廟を除く建物は現在、ほぼ土台しか残っていませんが、中庭へと続く正門部分は現存し、当時の様子を保っています。

壁面は、小さなタイル片を組み合わせて模様を作るモザイク技法で装飾されています。アーチ型の入口の真上にある碑文には、この

建物を建てた建築家の名前が、スルス体と呼ばれる書体のアラビア語で記されています。上部には、幾何学装飾の中に混じって、5つの菱形の碑文があります。そこには、「アッラー」などといった聖なる言葉が記されていますが、クーフィー体という直線的な書体をデザイン化しているため、解読は非常に困難です。しかし、安定感があり美しいクーフィー体は見る者を魅了し、そのために建物の壁面装飾として好んで用いられました。



建築家の名を記した碑文  
Inscription of the architect's name.

The architectural complex of Gūr-i Amīr (ca. 1405), the mausoleum of Tīmūr and his sons in Samarqand, originally consisted of several buildings, including *madrasa* (religious school) and *khānqāh* (place for spiritual retreat) whose foundations now remain.

The entrance portal and the mausoleum, however, still retain the original appearance. The walls are richly decorated with mosaics composed of various tile segments arranged according to predetermined designs. At the top of the arch, the Arabic inscription in cursive *thuluth* script records the name of the architect. Among the geometric patterns higher above are five rectangular *Kūfī* inscriptions with straight lines and angles. Due to the beauty and the sense of stability, *Kūfī* was often chosen to decorate the walls of Islamic architecture.

English abstract by Yasuko Fukuhara



クーフィー体による碑文。  
「アッラー」という単語が含まれる。  
Kūfī inscription with "Allah" and other words.



ゲーリ・アミール正門 Entrance portal of Gūr-i Amīr

### 萩野矢慶記ギャラリートーク

2007年9月1日(土)午後2時~3時

横浜ユーラシア文化館3階企画展示室

企画展「シルクロードへの誘い 萩野矢慶記写真展 青い煌き ウズベキスタン」(2007年4月28日~9月2日)の入館券が必要です。入館料: 一般 500円、小・中学生 250円

“Gallery Talk” by Keiki Haginoya

In Japanese only

2 p.m. to 3 p.m. Saturday, Sept. 1, 2007

The professional photographer Keiki Haginoya will talk about his works featuring Uzbekistan, and the art of taking travel snapshots.

Free with museum admission. Adults ¥500, Children ¥250.

# Gallery Talk ギャラリートーク

## 楔形文字粘土板文書(2)

### Cuneiform-Inscribed Clay Tablets (2)

鶴岡宜規 Yoshinori Tsuruoka

横浜ユーラシア文化館の所蔵する粘土板のほとんどはウル第三王朝時代(紀元前2100-2000年頃)、プズリシュ・ダガンにおいて作成されたと考えられます。プズリシュ・ダガン

はシュメールの最高神エンリルを祀った都市ニップルの近くに位置し、犠牲用家畜を管理する役割を担っていました。その際の家畜管理に関する記録がこれらの粘土板です。

史料 YMEAC-03-CT0093

#### ■ 表

- (1) 1頭の大麦で飼育した良質の成熟したヤギ、
- (2) 1頭の大麦で飼育した2番目に良質の成熟したヤギ、
- (3) 1頭の羊、
- (4) 1頭の雌羊、
- (5) 2頭の雌の子羊、
- (6) 1頭の授乳期の雌の子羊が

#### ■ 裏

- (1) 死亡、17日
- (2) アフニから
- (3) ウルニガルが
- (4) 受け取った。
- (5) シュエシュシャの月(第8月)
- (6) アマルシンが即位した年  
(アマルシン治世1年)



史料をみると、ここではヤギと羊ですが、その性別、生死、成長の度合い、草や大麦という飼料の区別などの情報が詳細に記録されました。また家畜の移動先とそれに関係する人名の研究からこの管理組織は家畜の受け取り・支出・飼育の部門で構成されていたと考えられています。この家畜管理記録のような種類の粘土板一枚一枚は単純な記録ですが、同種の粘土板を大量に読み、整理することによって、はじめて当時の複雑な管理組織の存在を知ることができます。(中央大学大学院生

Postgraduate of  
Chuo University)



原寸 2.4 × 2.2 cm

Most of the cuneiform tablets owned by the Yokohama Museum of Eurasian Cultures are considered to have been made at Puzrish-Dagan during the third dynasty of Ur (ca.2100 - ca.2000 BCE). Puzrish-Dagan, located near the city of Nippur which worshipped the highest god Enlil, played the role of keeping livestock for religious sacrifice. The cuneiform records on the clay tablets, each bearing simple facts, provide substantial information as a group, concerning the livestock management, such as names of persons and places, different types of feed, and the structure of the organization.

English abstract by Yasuko Fukuhara



# ウズベキスタンと日本

廣瀬徹也 Tetsuya Hirose

日本と中央アジアの繋がりは千年以上も前に遡る。仏教や正倉院収蔵の宝物なども、シルクロードを通じて「西域」からもたらされたといわれている。

19世紀後半以降、中央アジアがロシア帝国、続いてソ連の支配下にある間、日本との接触は限られていた。第二次大戦後、ソ連に抑留された60万人以上の日本軍人・民間人のうちカザフスタンに約5万人、ウズベキスタンに約2万人が送られたという。不幸にして亡くなられた方々の墓地は地元の人々によって守られてきた。ウズベキスタンの首都タシュケントは1966年に大地震に見舞われ、殆どの建物は倒壊し多くの犠牲者を出したが、抑留者が建てたナヴォイ劇場は倒壊しなかったのは有名な話である。ウズベキスタン独立後、親日的なカリモフ大統領の決断で“数百名の日本国民が、この劇場の建設に参加した”旨の碑文が壁にはめ込まれた。日本政府は友好のシンボルとして94年同劇場に視聴覚照明機材の文化無償協力を行った。

現在、強権的政治手法で国際的な批判を受けるカリモフ大統領は、市場経済化については91年独立当初より、日本や東アジアの体験に習い、漸進的なアプローチを採用した結果、CIS諸国の中では独立後の経済の落

ち込みは比較的緩やかであった。しかし国民の約4分の1が今なお貧困状況にあり、日本は同国で最大の援助国となっている。

独立以来ヴォランティアとしてタシュケント国立東洋学大学で日本語教育に携わってこられた菅野怜子先生によれば、独立当初、同国で日本語を知っていた人は一人か二人だった由であるが、いまや日本語履修者は1,400人余。首都から約300kmの地方都市リシュタンには、かつてその近くでエンジニアとして働いていた故大崎重勝氏が自費で作った日本語学校「NORIKO学級」があり、約100人の児童が日本語を習っている。両国大学間の提携も始まった。アラル海の環境汚染問題に取り組む日本の人たちもいる。ウズベキスタンと日本の友好は政府関係者やビジネスマンだけではない、ここに紹介しきれない両国の多くの有志の人たちに支えられているのである。



Japan's link with Central Asia dates back more than 1000 years ago. Buddhism and the treasures of the Shosoin Treasure Repository were brought from "the Western Regions" through the Silk Road.

Of the Japanese soldiers and citizens illegally detained by the Soviet Union after World War II, about 70,000 were sent to Uzbekistan and Kazakhstan.

The Navoi Theater in Tashkent constructed by the detained Japanese survived a big earthquake in 1966. After the independence of Uzbekistan, an epitaph telling that "several hundred Japanese citizens participated in the construction of this theater" was fixed into the wall by the order of the pro-Japanese President Karimov. The Japanese Government granted audio-visual and lighting equipments to the theater as the

symbol of friendship.

More than 1,400 people are now studying Japanese. The friendship between two peoples are supported not only by the efforts the governments and businessmen are making, but by the dedication of many volunteers of both sides such as Ms. Reiko Sugano who has voluntarily been teaching Japanese at the Tashkent University of Oriental Studies since the independence, the late Mr. Shigekatsu Osaki who opened, with his own money, a private Japanese language school "NORIKO class" at the local city of Rishtan or Japanese people tackling with the issue of environmental pollution of the Aral Sea.

(アジア・太平洋国会議員連合中央事務局事務総長 Secretary-General, the Central Secretariat of Asian-Pacific Parliamentarians' Union)

## Special Exhibitions and Events

### 展覧会・イベントのご案内

#### 夏休み企画 Event

2F

2007年8月1日(水)～8月31日(金)

Wednesday, Aug. 1 to Friday, Aug. 31, 2007

—企画展「青い煌き ウズベキスタン」—  
さわれる展示

民族衣装を着てみませんか！

“Try Them On!”

You can actually try on the gorgeous gowns and hats from Central Asian countries.

ウズベキスタンの  
民族衣装を着てみませんか！



時間 Hours: 10:00 - 12:00, 13:00 - 16:00  
(正午から午後1時までは昼休みです)